

春のサイドカーシーズンの 先陣を切って、 好天に恵まれた 八子ヶ峰の3日間

JSC第42回全国ミーティング/ 白樺湖サイドカーフェスティバル、 2度目の八子ヶ峰ホテルにて 盛大に開催された。



第42回全国ミーティングの開催日、なぜ早いのですか？というお問い合わせが多かった。主たる理由は高速インターそばの諏訪大社の御柱祭が開催されるため、帰路、諏訪で見学して頂く、というわけだ。7年前に来日したFOSCのボブ・パーソンズ夫妻も「荘厳さ」を堪能して感激して

いた。諏訪大社そばには駐車場もできるので、帰路にご見学していただくというわけだ。またミーティング解散日にはなんと矢崎JSC長野支部長の小宮での御柱行事も実施されて有志が見学を実施、また5月3日と4日にも上社の行事が実施された。

全国ミーティングも第1回開催から、今年でなんと43年目に入るわけであり、初期からのメンバーも60歳以上になって、その子供、孫達が参加するようになったのもサイドカーならではのいえよう。また近年では「側車登録になったトライク」もサイドカーの仲間として参加するようになって

たのも特徴だ。

最近「1000円ETC」での全国的な渋滞で参加を控える人達も多くなったが、空いている夜間に走り四国、九州、東北から参加する人達も少なくない。それでも安全のため、混む比率の高い黄金週間の後半を避けるようになった。

2010年度全国ミーティングは5月1日から3日まで長野県の白樺湖、八子ヶ峰ホテルに宿泊230名、日帰り150名の計480名もの参加者を数え、2日間の「側車デー」をツーリング、サイドカー&トライクショー、運動会などで大いに楽しんだ。



5月1日

従来はホテル受付を午後1時よりの開始にしていたが、部屋のチェックインとのズレがあったため、今回は受付を午後2時からとして、受付後は部屋に入れるようにしたのが新たな変化であった。もちろん、それ以前には多くの参加者の姿がみられた。朝から姿をみせたのは恒例のサイドカー&トライクショーのショップ様達、事務局側では会場の用地仕切りにてんやわんや、会場設営まで数時間、お待ち頂いた。

全国ミーティングの初日は、とにかく無事に到着して頂いて、ゆっくりと参加者同士で歓談して頂く、またサイドカー&トライクショーを見学して頂くという主旨でスケジュールを組んでいる。

5月1日のスケジュールは午後1時より第13回サイドカー&トライクショーオープン、ショップによっては試乗が可能であった。そして午後2時より受付&チェックインが開始、ホテルのフロントおよびロビーにてスタート。

八ヶ峰ホテルは入り口が3階にあり3および4階が客室になっている。今回はホテル側のご好意でチェックインを通常の3時から1時間早くして頂いた。

ミーティングの初日は、遅く着く人には多くの参加者の姿がみられた。朝から姿をみせたのは恒例のサイドカー&トライクショーのショップ様達、事務局側では会場の用地仕切りにてんやわんや、会場設営まで数時間、お待ち頂いた。

まず「歓迎のあいさつ」を松永雅弘ミーティング役員が。続いて乾杯の音頭はJSCの小見欽哉会長が行う。そして食事も順調に進んだところで中間挨拶を秋田支部の小関川均さんが、また今回よりサイドカー&トライクショー代表の挨拶として昨年に加されたゴードンエンタープライズ代表の萩原勇さんがトライクをアピール。さらに海外からの参加挨拶としてウラルジャパン広報のリャチェン

コ・オレーシャさんが流暢な日本語+歌で。そして中メは京都滋賀支部代表の南出稔さんが行った。

恒例の抽選会が高野栄司東京支部長の司会でミーティング担当ボランティアの皆さんが配布にまわる。この景品はいずれもJSCへの協賛された皆様からのもので、これは別項に提示しているそして景品分けは愛知支部の森島雅彦さんが前日から行ってきたもので、その敏腕ぶりに感謝したい。景品が4つばかりわたったところで最後のメとして、JSC最長の会員である山口貴史元事務局局長が挨拶した。午後9時半より二次会が2階の希望の館、愛で実施され、ホテルのご好意で会員からの酒類の持込みがあり、おつまみのみホテル側でご用意して頂いた。遠来の方は疲れて二次会ここではない方もみえられたが、皆でサイドカーを語りあかして友人を造り出す最も有効なミーティングなので、単身参加の方はぜひとも参加して頂ければ幸いである。



松永役員



小見会長



小関川秋田支部長



萩原ゴードン代表



オレーシャさん



南出京滋支部代表



高野東京支部長



山口元事務局長



5月2日

JSC全国ミーティングが連泊制度になって、いつもメインデーは2日目である。そのスケジュールの幕開けは朝7時から、2階希望の館レストラン輝での朝食で原則的に8時半まで実施。というも9時にはホテル玄関前にて「参加者記念撮影」があるからで、まずは集合、それも撮影後に実施されるビーナスラインへのビッグツーリングのスタートがだからだ。館内放送もされるが、とにかく全国ミーティングの2日目は朝9時に記念撮影ということになっているから、記

憶して頂ければ幸いである。

記念撮影後にツーリング準備までは、参加者の皆さんは外の駐車場で参加マシンチェックに余念がない。イベントのメインが5月2日朝9時半出発の、ビーナスライン・ビッグツーリング。ホテル前から白樺湖信号を経てビーナスラインに向かい、霧が降って休息、記念撮影してさらに終点の美ヶ原高原まで走るもので100台以上のサイドカー&トライクが連なって走る様は圧巻だった。

ホテル駐車場からツーリング参加

車が最初から最後まで台数が多く、すべての車両が出るまで30分以上はかかるため一端、ビーナスラインに入って、すぐの旧料金所である程度がまとまるまで待機して、揃ったら走るようにしている。ビーナスラインを連なって走る参加車達、サイドカー&トライク合同のマス・ツーリングのなごめは実に気持ちよく、この醍醐味を味わうためミーティングに参加する人も少なくない。最終地点の美ヶ原高原美術館のオブジェなどと記念撮影する光景もみられた。



ツーリングから先発組に戻った頃、午前11時から隣接のレストランウイスラーにて昼食および飲食開始の時間になった。今年は諏訪での御柱のため、ウイスラーの代表は御柱のため、JSC矢崎長野支部長同様に不在で厨房は従業員の方に特別に出て頂いたもの。前回は昼食券付きだったが、ここ10年来は、ずっとJSC会員1泊1万2,000円でできているので、予算の関係で費用は自己負担とした。

サイドカー&トライクショーの主要ショップでの試乗会を開催、いわゆる「チョイ乗り」ではあるが、マシンを知るには絶好の機会といえるだろう。その後、午後2時からは、ホテル対面の丘陵地のグラウンドでのサイドカー&トライク運動会を実施。いわゆる砂利と未舗装のため、勢い余ると崖が2方にあるため、マシンを落とすことが考えられるためミニ・コースでの佯装技、パン食い競争など行った。

今回は特にプラモデルでおなじみの軍用サイドカーのBMW R75やツェンダックKS750それに横浜から自走してきたR12、そしておなじみの陸王1200の歴史的4台が、ツーリング後に出揃って圧巻だった。こうしたことがあるだけにマニアにはたまらないのが全国ミーティングといえるだろう。

午後4時までのサイドカー&トライクショーのオープンでショップにより試乗可能、数社で試乗を実施していた。今回は連泊の人が多く、その6割がツーリングに参加したが、残った人は各ショップでの展示車見学や歓談、商談などを実施していた。

同時に2日目の参加者の受付の開始も3階ロビーフロントにてスタート。その後、運動会が終わって4時半から2F集いの館でJSC会員のみ全国会議が行われた。内容は別項に記



神宮司ボクサーC代表 橋葉コロフィー代表 吉永高知SC代表 松浪新見RC代表 難波ドマーニC代表



田代剛本RC代表



神宮司さん、りんごの木当選



新沼長野支部事務局長と



野村島根支部長



二次会風景



信濃ワインと

すが、JSCの会計報告、運営方法などを会員で討議する唯一の機会なので、意見のある方はぜひとも参加して頂きたい。

午後6時から前日同様に食事&抽選会が2階、希望の館レストランで開催された。もちろん参加タグは必ず携行しないと、抽選にあっても品物がもらえないシステムで、どうしても出られない場合には、受け取るのを誰か託してもよいことになっている。今回は食事と抽選会が同じ場所で実施されるため、そうしたことはなかった。

前日同様に、歓迎のあいさつを松

永ミーティング役員が、続いて乾杯を利根川時代からのJSC会員でボクサークラブ代表の神宮司団員さんが、また中間挨拶は高知サイドカークラブの吉永貴さんが、ショーの代表挨拶はコロフィー代表の橋葉隆明さんが行った。その後2010年度の催事挨拶としてオータムミーティング担当の京都遊覧支部の南出登さん、西日本秋のミーティング担当の岡山新見サイドカークラブの松浪弘さんが挨拶。そうした中で中メはドマーニミーティング主催の難波貞夫さんが行い抽選会に突入。前日に続いて東京支部長の高野栄司さんが柔軟な司会

で抽選をすすめて、注目の「りんごの木オーナー権」は神宮司さんが当選。そして最後のメは九州の熊本ハーレーオーナーズクラブ代表の田代哲哉さんと野村政美島根支部長が行った。

そして二次会が2階希望の館愛で開催され、「三輪談義」を朝まで語り合い。翌5月3日は朝6時半より8時半まで食事、参加者の皆さんを送り出した後にミーティングボランティア全員で後かたづけして、帰路についた。

(撮影画像協力:勝野章/菅沼伸夫/高橋光三/橋本昭/古野一彦/森本一/宮本尚子/JSC写真班)